

石高神社報

御神札の頒布について

今年度より御神札（おふだ）の頒布を年に一度年末に行なうことに、先の総代会で決定しました。昔は麦初穂・米初穂と称して年に二度頒布していましたが、最近では農家の割合も減り、この呼び名も次第に使われなくなっていました。現在ではむしろ年に一度新しい年に向けて御神札をいただく方が時代に合っているのではないかと考えて、十二月に頒布することになりました。また、いままではいわゆる「地の人」を中心に、一部のご家庭にしか頒布できていませんでした。しかし、氏子区域に住んでいる人はすべてが氏子ですので、今後できるだけすべてのご家庭に同うように計画しております。

御初穂料につきましては千円とさせていただきますが、一度で今までの二回分の金額となることでもありますし、金額はこの限りではありませんので、少しでも多くのご家庭で氏神様の御神札をお祀りされますようお願い致します。尚、このお金の一部は、社殿等の修理積立金に充てさせていただきますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

第七号

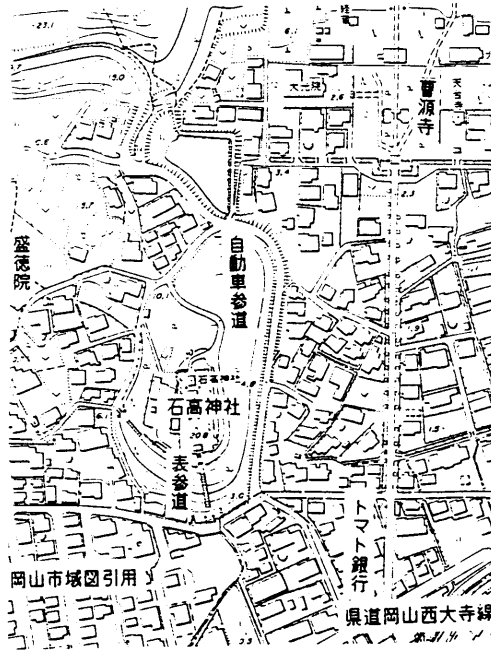
発行日 平成二年七月十日

発行者 石高神社 宮司 高原 章兆

発行所 岡山市円山八五三 石高神社

TEL 七七一九〇〇三

自動車道のご案内



地図に示しましたように、神社のある山の東をぐるりと回って北側から社殿の東まで自動車が上ることができるようになっています。宮山の東・北の境内地の一部を約二十年前に市に寄付してできたものです。山の部分の参道は舗装ができておらず、御迷惑をおかけしていましたが、登りがけの斜面の部分の舗装だけがやっと今年の冬にできました。

氏子区域と総代

当社は、もともと現在地の北手にある高倉山の嶺上に鎮座していました。このため、氏子区域が山の北側に多く広がっています。その頃は、山の南側はすぐ海で、古老の話によると、現在の表門付近の松の古木には、舟のロープをつないだ跡が残っていたそうです。その後、新田の開墾に伴って、氏子区域も次第に南へ広がっていき、一時は倉益・倉富も氏子になりましたが、後にできた沖田神社と同じ新田の氏神ということから、その氏子になりました。現在では、南は倉益土手まで、東は福泊の西半分から西は湊に及んでいます。北はおおよそ山陽本線までの地域で、清水・赤田・藤原・高屋・関および沢田が氏子区域になっています。

神社には氏子の代表で世話人である「総代」がいますが、昔からこれらの地域の村あるいは枝村から一名ずつ選出されています。最近では戸数が増え、昔の村が分かれて新しい町内がたくさんできました。しかし、総代の数は円山以外は昔のまま、総代のいない新しい町内がたくさんあります。神社としましては、できるだけ一町内一総代の方向でお願いしたいと考えております。

現在、総代は次の十九の村（町内）から選出されています。円山（境内、宮西、中央、浜倉、団地、外新田）嶽、福泊、山崎、池の内、湊東、湊中、湊西、清水、赤田、藤原、高屋、関、沢田。湊だけは昔から三つに分かれています。これは江戸時代以前から栄えていた所で

戸数が多かったためのようです。

松輪くぐり

七月三十一日晚

夏祭りが近づいてきました。このお祭りは「輪くぐり」と称して茅の輪をくぐり、疫病から身を守るお祭りです。お配りしております「ひとがた」を切り取って、家族の名前・干支等を書いてお参りください。罪・けがれをばらい、家内安全・傷病平癒の祈願にもなります。今年もうちわを用意しています。

末社紹介 ⑥ 霊社 天

幣殿の西側にある社が霊社です。文字からもわかるように、祖霊を祀る社で、二十数代にわたる石高神社代々の官司の祖霊を祀っています。

後記

平素は勤めに出ており、神社の守りも十分できず、外祭等でもご迷惑をおかけしておりますが、先人達の思い、文化遺産を守る気持ちで頑張っております。梅雨空の雨の中、原稿を書いておりますが、今年は社殿の雨漏りや裏の大雨による自動車道の心配がなくなり、これも氏子の皆様のおかげと感謝しております。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。